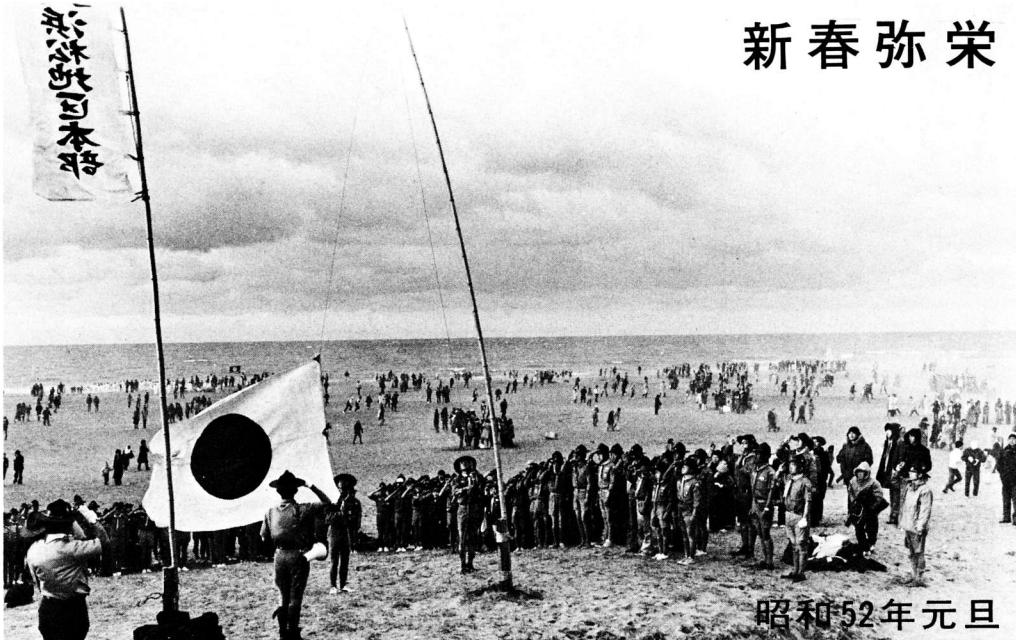


<p>予告 第7回日本ジャンボリー テーマ 「希望と躍動」 参加者 25,000名</p>		<p>[会場] 御殿場市滝ヶ原 海抜 750m 使用可能面積 2,000万平方メートル</p> <p>[期間] 昭和53年8月4日(金)より 昭和53年8月8日(火)まで</p>
---	--	---



新春弥栄



新年の言葉

B S 浜松地区協議会長 吉沢 純道

昭和52年の新春、我等ボーイスカウトにとって尚一層善意ある明るい人生と社会への開拓に是の道を進んで行かなければならぬ。スカウトに奉仕する各隊の諸氏の献身的努力にてB S 浜松地区の拡大強化を将来せらるは、1970年代我等の世界に於ける盛事である。又、この道にたづさわる人々こそ、国の宝である。地位も名誉も財産からも離れてこの道こそ、何ものにも比べるものない尊い道である。比叡山延暦寺の伝教大師は、年分学生式を通し、若き学徒に向って警告をしている。「国宝とは何物ぞ。宝とは道心なり。道心ある人を名づけて国宝となす。かるが故に古人の言く征寸十枚国宝に非ず。一隅を照らす。此れ即ち国宝なり」と。千年前の先覚者の言葉であるが、又時と処を隔つれど、萬世萬國に通ずる一言である。殊にスカウト運動の実際を味う時、尚一層この感を深くする者である。お互にこの道にたづさわり歩み行く者はこの縁を喜ばなければならない。それこそ縁ある所を喜ぶべし。縁ある所に生くるべし。

縁ある所を尊ぶべし。縁ある所に恵まるべしである。B S 静岡県連としての本年度各地区的増強拡充を計画して当地区各役員当事者の格段の御指導御配慮を願わなければならない。

終りに各団の繁栄と健康を祈念する次第です。

閑話休題=現代日本の言葉に印度語によるものを話題として記し、御照覧に供します。

雨、兄、頭アダ、石瓦、色、上金、角、釜、皿、財布、舌、空、トト、喉、鼻、裸足、肘、村、山、人、蓋、饅頭、無駄、等日常使用して日本語になって、これが外国から来た言葉とは思えない程、私達の日常の言葉となって居る。正月に「明けまして、御芽出とう」という言葉も印度語が訛って、立派な日本語となって居る。もとは阿弥陀より来る。阿弥陀は、サンスクリットで、アミリタという。アミリタとは、無量寿、無量光である。限りなき命と限りなき光り働きである。永遠の命と永遠の力、働きこそ、「御芽出とう」である。スカウトも亦永遠の命・永遠の光である。呵々。

第1回ボーイスカウト写真コンテスト入賞作品

一般の部:

推 選



キャンプファイヤーが始まるよ

水野 和重 (浜名第8団)

特 選



もえろよ營火

坪井愛三 (浜松第7団)



かたらい

山中洋一 (可美第1団)

特 選



四人五脚

島津嘉光 (浜松第24団)



ボーイに向って飛べ

中谷好子 (浜松第7団)

特 選



三ヶ日青年の家キャンプ

田中正和 (浜松第14団)



頌春によせる「忍」の一字

浜松地区委員長 内田時世

三指、昭和52年おめでとうございます。
待望の第7回日本ジャンボリーも既に大綱が決定して、本年はその準備期に入り皆様方の日頃の奉仕も一段と多忙になる事と存じます。

平和の中にもなにかしら不安定は昨年来の世相の中に迎えた1977年であります。今こそ私達のボーアズパワーにより全スカウターが協力して眞実の生きがいある日本をスタートさせるため、心を新たに、奉仕の実をあげようではありませんか。昨年は国家愛を正しく植えつけることを提言しました。現代青少年に生きがいと、夢と希望を与え、青少年に奉仕するのが私達のスカウト運動の目的であります。唯、青少年の希望のみに迎合するだけでなく、共に、不足、不満に耐え得る忍耐を養成し、訓練し、そして反省する事を今年の課題としたいとおもいます。「忍を行ずる者は有力の大入なり」という言葉は私の父内田六郎前地区協議会長が私の学生時代によせた座右の銘であります。「忍」の奉仕こそスカウト活動の源動力だと確信しております。1977年（行くダブルラッキーセブン）がスカウター全員の「忍」の一字により眞実の幸がさずかることを祈っております。

正月元旦 弥栄

昭和52年の新春を迎えて

浜松地区副委員長 杉山友男

昭和52年の新春を迎え、皆さまおめでとうございます。今年もよろしくお願い申し上げます。

さて52年を展望しますと、我々浜北ブロックの各団にとって、大きな課題に当面する年になりそうです。

「浜北は早く独立すべきである。浜松地区より分離することが、浜北市にとっても、浜松地区的組織拡大の点からも、のぞましい」——この声は耳の痛くなるほど聞かされてきました。

しかし現実の面から考えると、リーダーの層、団委員の層、これを育て上げる地元の風土、地味な奉仕のできる人の有無……等を考えると、頭をかかえてしまうことが多く、今日に至ってしまっております。

当然責任を感じておりますが——

ところが昨年秋ごろより浜北市中瀬地区に新団発生の機運が生れ、外山副コミに依ってスカウト予定者の教育訓練も始りつつあります。

おそらく3月頃には浜北第5団の誕生が実現しそうであります。そうなれば地区として最少限必要な5団有することになるので、資格的にも問題はなくなります。

後はその時期、独立した後の組織、本部構成、リーダー、団委員を総合した受け皿がどうかということになります。

いずれにせよ大きな流れは脈々と動きつつある中で、浜北ブロックの関係者にとって、関心をもって頂きたい課題を投げて新年のごあいさつに代えさせて頂きます。

生きた教育 浜松地区副委員長 内田嘉一

世界的に有名な物理学者AINSHUTAIN博士は幼時から神童ではなかった。小学校に入るまでは、満足に口もきけなかつた。子供達の仲間にも入らず、先生からは「退屈坊主、と仇名をつけられ、しかも級の中で唯一人のユダヤ人であつて常に仲間外れにされていた。

昆虫記で有名なアンリー・フアーブルは小学生の頃、ABCも覚えられない程出来の悪い子であった。ABCの頭文字で動物を書いた絵本を父親に買って貰つてから、動物好きになって、熱中して読んで遂には文章が読めるようになり文章が書けるようになった。

発明王トマス・エジソンは、学校の授業に仲間について行く事が出来なくて校長先生から退学を命じられた程であった。その後新聞売子をしながら遂には、大発明王になった。

野口英世は三才の時、左手に大やけどをして「テンボの清作」とからかわれるのでつらくてよく学校をサボった。

家庭は貧しくして父親は飲んだくれの怠け者。もし賢い母親の励ましと、その才能を見出して指導してくれた先生の厚意がなかったとしたら彼は、人生に反逆するいわゆる非行少年として成長して暗黒の人生で終つたかも知れない。

以上の代表4人の人物には、それ相当に素質もあったであろうし、又努力の積重ねもあったであろう。

種々の要素や、時代環境も無視することは出来ないが、育児=子を育てる、ということは決して技術ではない。

目先きの育児意識に捉われて、育児ということの本質を忘れてはならない。赤ちゃんに赤ちゃんの個性があることを忘れてはならない。そして幼児期、少年期、青年期とそれぞれ同じ事が言える。

英国の有名な心理学者A・S・ニイルは「問題の子供などというものはない。あるものは問題の親だけである」。「学習そのものは強いものでなく、学ぼうとする意志に待つものである」「人の性格は、乳幼児期につくられるのだ」と言っている。親として誠に味うべき言葉である。

2ヶ月の児には、2ヶ月に適した質の母乳、6ヶ月の児には6ヶ月に適した質の母乳が与えられなくてはならない。そして、心理学の迷信に捉われないで、その本質を知るべきである。

家庭に於ける躾というものは、3つ、4つ、5つの頃に両親が、深い慈愛と厳しい鞭を以て躾をしたならば必ずそれが身につくのである。

教育というものは、教え与えるものではなく、力を引き出すことである。

教育の最終目的は、私は、考える能力を高めることにあるのだと思う。

以上の事を念頭においてスカウティングの一貫したプログラムを考え直してみると、広い視野と、実施すべき施策が自然に湧いて来るよう思う。

C SにはC Sの、B SにはB Sの、S SにはS Sの、R SにはR Sの、そして春には春の、夏には夏の、秋には秋の、冬には冬の、適切なアイデアが考へられて来る筈である。

年頭に際して御一考を頂きたいものである。

地区野営行事委員

芝形野営場で研修会開催

地区コミ 牧野 績

肌寒い11月13日14日の両日、地区内野営行事委員25名が参加し、キャンプでの初歩的な実習を主体に研修が実施された。

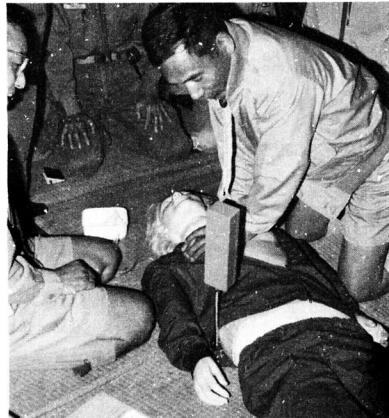
今回の研修は自主的なもので、野営行事委員がキャンプに同行した時、少しでも野営の知識がなければと云う事で、竹村野営行事委員長の提唱で開催のはこびとなり、これに地区コミ諸氏の協力を得、1泊2日の楽しい研修会となつた。

13日午後2時現地に集合、班編成(4カ班)の後、開会式が行なわれ、宮沢地区副委員長からもこの研修会の開催について、他地区他県連でも例の見ない立派なものであるとのおほめの挨拶をいただき一同大変喜を良くした。研修会の内容は、キャンプについての講義、大釜による炊事、救急法の講義と実習、ゲーム、スカウトソング、天幕の立て方、撤営、野営に必要なロープワーク等、それぞれ実習を主体に展開された。

時に今回の研修には、内田地区委員長が救急法を担当され、日赤病院から高価な人形を借りてきてくださって、人工呼吸の実習を行ない、各委員の方々は大変熱心に時間の来るのも忘れ人形を押したり人形の口に口づけをし!! マウスツーマウスの実習を行なった。

14日は午前中生憎の雨にたたられ室内で天幕を張ったが、午後は晴れ屋外でロープワークの実習を行ない、それぞれ自信をつけられ、これから野営がまちどうしいと大張り切りであった。午後3時撤営を完了し、この度の研修会の所期の目的を達成し解散した。○各団の参加状況

浜松4団	1人	浜松7団	1人	浜松10団	3人
〃 14団	3人	〃 20団	2人	〃 21団	3人
〃 24団	5人	浜北1団	1人	浜北2団	1人
浜北4団	3人	可美1団	2人		

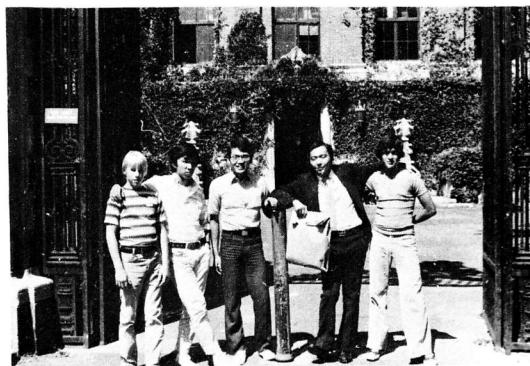


国際キャンプスタッフ雑感

—(Growing together)—

浜松第6団 B S隊副長 寺田 和義

今回の派遣をふり返って、まず頭に浮かぶのは、日連から正式な派遣通知を受け取って羽田を立つまでの二週間の実にあわただしかった事である。不安と期待の交錯したあの頃の事が鮮明に思い出される。選考試験にパスし那須で行なわれた準備訓練に参加しながら、8名の仲間が受け入れ困難の為涙を飲んだのである。幸いにして私は米連盟からの配属先決定の通知を手にする事ができ、喜びと共に責任の重さをあらためて噛み切った。派遣先はルイジアナ州のキャンプアバンデイルであった。日本からの19名のスタッフの中で、ニューヨークから最も遠かったが、なんと2泊3日のバス旅行。もっともおかげで、バスの中からではあったが名所・旧跡を見ることができた。



一閑話休題 本論に入ろう

私がキャンプ場で担当したのは、コミッショナーと技能章(野営章、結索章、調理章等)のカウンセラーであった。数百人のスカウト、リーダーとこれらの任務やゲーム、キャンプファイアを通じて6週間のスタッフ生活(注=残り2週間は旅行)を十分に理解し、満喫する事ができた。着いてまず驚かされたが、その広さと設備、そしてスタッフの若さであった。中心となって働いていたのは、なんとエキスプローラー達であった。彼らはボーイ時代に楽しいスカウト活動を満喫し、シニア年代に入るとボーイスカウト達を喜ばせる事を自らの喜びとするようになる。その為、実に様々な訓練コースが用意され、そこで優秀なスカウトになるよう訓練されて責任ある地位につき、それを誇りとする。フィルモントのコースなどはその最たる物である。また米連盟にはO.A.といった組織があるが、ともすれば技能のみに走りがちなプログラムをカバーし、ちかい、おきてを実践するのがこの組織である。アメリカのスカウティングはシステム化され、それを支えているのが有給のスタッフ、エクゼクティブであり、その活動を援助する国民である。私はただ、ただため息ばかりついていた事を白状する。

確かに彼らの悪い面も見たり、聞いたりした。改善すべき点も多々有ると思う。しかしスカウト人口650万人以上を有する先進国のすばらしさを素直に認め、良い点を日本なりに消化吸収し、日本のスカウト運動のさらなる発展を目指すべきである。

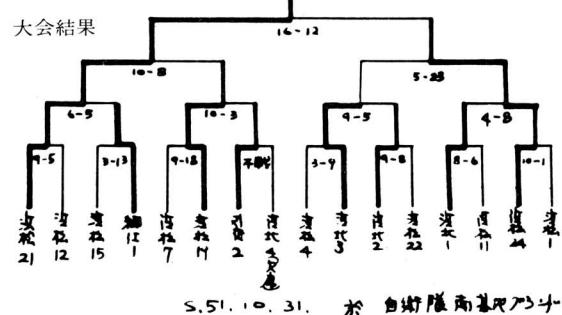
今回の派遣で私の得た最たる物は、Lookwide, For Understanding にとどまらない。Growing together の精神であった。

最後に、私にこのようなすばらしい機会を与えて下さった、日米両連盟、及び団や地区の方々、本当に有難うございました。微力ながらこの体験を生かして、スカウト運動発展のために尽したいと思って居ります。

昭和51年度地区ソフトボール大会

優勝 浜松第21団に決定

10月31日、自衛隊南基地グラウンドに於いて地区ソフトボール大会が催されました。参加15チームが交歓試合を行い、数多くの好試合に成りましたが、浜松第21団少年隊が初優勝、初出場の浜松第24団が準優勝に決まりました。又この日は寒い日和でしたが、おいしい甘酒の支給が有りスカウト達は大喜びでした。



第7回日本ジャンボリー基本構想について 内田嘉一

第7回日本ジャンボリー特別委員会は、昭和50年11月19日を第1回とし、全体会議9回、分科会4回、現地調査4回、計17回の会合を重ねて、過去の日本ジャンボリー、近年行なわれた諸外国のジャンボリーについて、その精神、形態、内容をつぶさに比較検討し、日本ジャンボリーの将来と、あるべき姿を慎重に研究討議の上、基本構想を策定し、中央審議会へ答申書を提出した。（以下・抜粋）

1. ジャンボリーへの期待

ジャンボリーはスカウトの祭典である。しかし、単なるお祭りではない。全国25万スカウトが、自主活動を展開する一大青少年運動としてその成果を余すなく發揮しつつ、友情と、相互理解をうたうスカウト兄弟の楽しい祭典である。

2. テーマ

「希望と躍動」

若者にとって、明日は希望に満ちている。

未来は、あらゆる可能性を意味し、創造の喜びと、いのちの躍動とを内包している。

3. 会場

静岡県御殿場市滝ヶ原

海拔 750m、使用可能面積 2,000万平方メートル（60万坪）

4. 期間

昭和53年8月4日（金）夕刻 開会式

昭和53年8月8日（火）夜間 閉会式

* ジャンボリーの野営地は、8月2日から8月10日まで開設。

5. 組織と運営

サブキャンプを通じて運営される。従って、すべて次の系統による。

ジャンボリー本部（G H Q）サブキャンプ（S H Q）参加隊（J T）

a. 1サブキャンプの標準人員

B S 参加隊 1ケ隊40名×30ケ隊=1200名

S S 参加隊 1ケ隊30名×10ケ隊= 300名

C H Q 要員 80名

予備・調整人員 20名

合 計 1600名

b. 参加隊の配属

全参加スカウトが、友情と相互理解を深めるよう、各県連の参加隊は、各S Cへ配属される。

S S 参加隊は、S H Qへの奉仕、その他の任務を考慮してS C野営長の意向によって配属される。

c. S H Qの任務

1. 野営管理（S C内の地割りを含む）

2. 配給業務（S H Q……J T）

3. 参加隊への諸連絡、サービス、および隊長会議の主催と要望の反映

4. S Cに委任された選択プログラムの運営と管理

5. 全体プログラムの分担と協力

6. S Cの自主活動の企画と運営

7. パイオニア賞（仮称）の認定と交付

8. その他7 N Jの運営に必要な事項

d. 運営本部の編成 () 内は部長

総務部（広瀬丈一） 救護衛生部（伊藤 ）

行事部（鹿野 重） 輪送部（三浦徳一）

施設部（八木 清） 広報部（岩井 肇）

野営管理部（竹田正夫） 配給部（山下精章）

観光涉外部（市川重雄） 宗教部（ ）

国際部（竹宮帝次）

6. 参加者・参加資格

(1) 参加人員規模

● B S および関係指導者	40名×420ヶ隊=16,800名
● S S および関係指導者	30名×140ヶ隊= 4,200名
● S H Q 要員	1,000名
● G H Q 要員	700名
● 外国派遣団	500名
● 予備・調整人員	1,800名
	総合計 25,000名

(2) 参加者の割り当て

昭和52年3月末日現在のB S、S S、R S および指導者の登録人員数に比例して行われる。

C S 関係の登録数は加算しない。

各県連盟へは、編成隊数をもって割り当てる。ただし、S S隊の割り当てと、編成に当たっては、その端数に対し、ブロック内近隣県との合同編成が考慮される。

(3) 参加資格

参加スカウト、および指導者は、各県連盟、各隊を代表する派遣団であり、ただ単なる参加者ではない。7 N Jの名譽ある構成員である。従って、長期の野営生活にたえうる充分な健康状態と参加者としてのスカウトらしい自覚と野営技能を有することが期待される。

参加者の選考にあたっては、県連盟並びに各団が責任をもって選抜する。

A. スカウト

a. B S

昭和53年4月1日現在、2級スカウト以上

● ジャンボリー開催時、中学生以上

● 心身強健で、参加者として、ふさわしい精神、技能を有する者

b. S S

昭和53年4月1日現在、シニア一章を取得していること

● 自から進んで、シニアースカウトとして、7 N J、特にS Cの運営と活動に協力奉仕し、B S 参加隊の上級班長・隊付として、積極的に奉仕する意欲のある者

B. 参加隊指導者・準指導者

a. 隊長

● 25才以上の、WB研修所B S 課程修了者

● S S 参加隊長は、7 N J 開催時までに、WB研修所S S 課程を修了していることが望ましい。

b. 副長

● 21才以上の、WB研修所修了者であることが望ましい。

c. 副長補・隊付

● 副長補 18才以上、講習会修了者であることが望ましい。

● 隊付 指導力を有する1級以上のスカウト

d. 上級班長

指導力を有する1級以上のスカウトで、18才以下であること。

また、6ヶ月以上、班長として奉仕した経験を有することが望ましい。

C. G H Q・S H Q 要員

● 18才以上のR S、準指導者、指導者、および県連盟、日連役員。

● 7 N J 開催期間中はもちろん、その事前準備と、事後処理において責任を分担し得る者。

- C S 隊等に所属する女性指導者が、7 N Jへの奉仕を希望するときは、その適切な分野における奉仕について委嘱することができる。
(団委員の正式参加に制限を受けている)

7 参加隊の編成

7. 参加隊の編成

(1) B S 隊

(2) S S 隊

隊長 1 名

副長	2名	副長	2名
副長補 又は隊付	4名	隊付	2名
上級班長	1名	上級班長	1名
スカウト(32名(8名×4))		スカウト	24名(6名×4)
合計	40名	合計	30名

8. 参加費 1人 10,000円とする。

三。

9 第7回日本ジャンボリー日程大要

前　日	第　1　日	第　2　日	第　3　日	第　4　日	第　5　日	翌　日
8／3(木)	8／4(金)	8／5(土)	8／6(日)	8／7(月)	8／8(火)	8／9(水)
午前 開場式	設営	友情の集い	宗教行事	選択プロ	選択プロ	
午後 設営		選択プロ	J・大集会	選択プロ	選択プロ	
	開会式	友情の	パーティ	一		
夜間	隊営火	隊交歓営火	スカウト フェステバル	S C 行事 (交歓)	閉会式	

は全体行事

は準全体行事

～浜北ブロック活動記録～

浜北ブロックに属する浜北4ヶ団は、地区の行事には夫々参加すると共に、各団の行事計画に基いて、訓練、奉仕をつづけてきたが、ブロックとしてまとまった活動もまた実施してきたので、その概要を報告します。

まつりのパレードに参加した。この催しは浜北観光協会が主催して行われるもので、商工会をはじめ各団体が協賛し、年々盛大になってきた。

パレードは午前中、宮口地区と赤佐地区、参加団は地元の浜北第2団、第3団。午後的小林地区、北浜地区、浜名地区には第1団、第4団とで分担した。

パレードには、ミス浜北を中心として、浜名高校プラスバンド、日本楽器のバトンガール、天現教鮎ヶ瀬鼓笛隊、商工会の皆さんの仮装行列、ガールスカウトにボーイスカウトとつづいた大パレードは、行くところ市民の皆さんの大拍手を以って迎えられた。

尚、このパレードには浜北第1団のカブ隊の鼓笛も即席ながら参加、炎天下の大汗かいての熱演であってご苦労さまでした。

4. ボーイ、ガールスカウト浜松地区大会に地元として準備、推進に協力。

9月26日に行われた地区大会は、県立森林公園が地元ということもあって、事前調査、準備計画等についても野営行事委員会に協力推進してきた。カヌー競技場の池の使用についても許可を得るまでには松井、山下団委員長の奔走もあって実現をみた。

また計画外の臨時売店を特設したり、第1回の坂東隊長の浜北の風車の製作技術公開等、この地区大会を盛り上げるのに効果があったものと思う。

5. ブロックの団委員リーダーの懇親会

10月24日、岩水園にてブロックの団委員リーダー合同の懇親会を実施。

参加者は約20名。席上中瀬地区に第5団が生れようとしていることに対して激励も兼ねて、ブロックの運動会を実施しよ



浜北まつりパレード

うという話題も出て、反省やら各團の協力問題等、積極的な議論で花が咲いた。

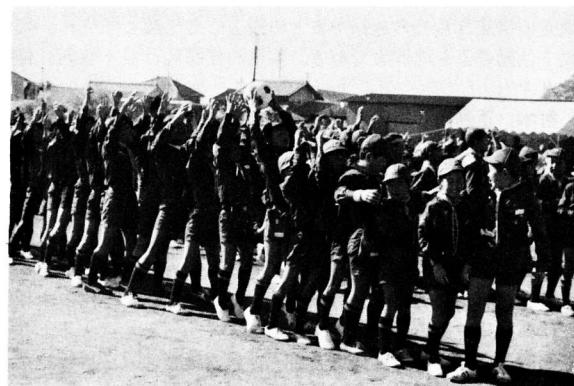
6. 浜北ブロック運動会 11月21日、前日の雨もやみ晴れ上った好天気のもと、中瀬小学校に於て浜北ブロックのスカウト及び父兄がたのしもうという運動会を実施した。

これに先立ち芝本駅東に集合したスカウトや父兄は中瀬小学校までパレードを実施した。本日初公開の浜北第4団のカブ隊の鼓隊も第1団の鼓隊と共にパレードに華をそえてくれた。

中瀬小学校々庭には地元中瀬地区のスカウト予定者や設立に奔走されている大城、伊藤の各氏をはじめとする関係者が出迎え合流して、運動会は開始された。

杉山地区副委員長のあいさつから始まり、テーマは「友情と発展」中瀬地区の発團を皆の友情で発展させようという意図のもと、錦秋の一日を親子で存分にたのしもうというプログラムで構成されている。

カードに示された動物のまねをしながら競争する「動物あそび」、「リム廻し」のリレー、ボーイスカウトに依る「天幕



浜北ブロック運動会＝ボール遊び

張り競争」、眼をふさいだお母さんにおんぶされたカブ君たちが口を塞がれた状態でお母さんをいかにうまく操縦するかという「お母さん操縦」、急造担架の「ピーポー出動」「ボール遊び」「むかで競争」風船破りの「母子けつ压くらべ」「ちょっと押借」、最後に「綱引」とつづくが、入賞しても賞品がないのがこの大会の特徴。「弥栄」か「ウォー」でその栄誉は空高く、こだまする。

しかし最後、スカウト全員は参加賞としてノートブックを頂いて大喜びで散会した。

実行にあたっては、中瀬小学校の御協力にあつく感謝致します。

7. スカウト浜松編集会議

11月13日、外山宅で山中組織拡張委員長を迎えてスカウト浜松編集の当番ブロックとして編集会議を、つづいて12月18日、杉山宅で同じく山中委員長を中心に第2回の編集会議を行った。



浜北ブロック運動会＝お母さん操縦

浜北・引佐小地区団委員紹介

浜北第1団

横田 清雄氏 浜北第1団創立以来の育成会長をつとめ、健康安全委員も兼ねて今日に至る。明治45年2月7日生れ、昔は登山、スキーが趣味であったが、今は専らゴルフで健康管理のこと。開業医師として益々多忙。-64才-

小杉 弘氏 育成会副会長。やまと興業株式会社を創業した社長さん。最近ではご子息・昌弘さんの成長により、浜北観光協会々長にも就任、浜北まつりには大活躍。浜北ライオンズクラブ会員。-67才-

手塚 保氏 育成会副会長。昨年の浜北市議選挙に於て初出馬ながら見事当選し、若手議員として将来を期待されている。ライオンストアを経営し、浜北ライオンズクラブ会員。-50才-

杉山 友男氏 団結成以来ひきつき団委員長として団運営に努力している。現在は浜松地区副委員長として浜北ブロックのまとめ役として活躍。地区的組織拡張委員長時代、スカウト浜松の編集に力を注いでくれた。会社役員。-62才-

松本 芳郎氏 副団委員長として団委員長を補佐し財政委員として団の財政を一手に引受けると共に庶務関係もコマメにやってくれるので有難い存在であり貴重である。小松薬局を経営するかたわら浜北ライオンズクラブ会員としても活躍。氏の所有する倉庫の一部を団の器材の置場に提供してくれている。

-51才-



後列左より 高柳、石田、伊藤(達)、伊藤(勝)、硯田
前列左より 松本、杉山、小杉、 手塚、 宮木

伊藤 勝氏 組織拡張委員。ご子息2人をBSとCSに入隊させ、団委員として各種の行事等も積極的に奉仕してくれるよき理解者である。今年はBSリーダー講習も受けてくれ益々活躍が期待される。会社員。-38才-

小田 ヒデさん 組織拡張委員。婦人会支部長としても活躍。即ち人の世話をすることと働くことが大好きとのこと。お酒なら一合、ビール1本位いなら大丈夫。-40才-

米沢 吉治氏 指導者養成委員。息子さん兄弟を入隊させ、

地元の父兄たちとの連絡やまとめ役として活躍してくれ、スカウト活動の良き理解者である。家業の洋服店は益々順調に発展。
—40才—

村木 正弥氏 指導者養成委員。日産サニー静岡販売株式会社西営業部長さん。読書は何んでもという勉強家。特に家康の人生訓に傾倒し、子供さんの教育にもこれを役立たせておられるとのこと。紅茶、洋酒をたしなむ。—42才—

伊藤 達己氏 野営行事委員。委員はすでに5年程つとめ、忙しい野営行事関係として奉仕してくれ、人格円満。どちらかと言えば無口の方だが、お酒はきらいではない。小松の中心部に伊藤屋化粧品店を経営。—46才—

石田 二郎氏 野営行事委員。委員の経歴は未だ新しいが、団活動奉仕も熱心で、今回B Sリーダー講習も受け、やる気十分。日本楽器の豊岡工場につとめ、サイクリングと子供と共に魚つりに行くことが何よりの趣味。—50才—

高柳 博氏 野営行事委員。昨年度より団委員として、主にC Sを担当、奥様もG Sの役員をつとめられた経験から御夫婦で協力してくれている。織布業を経営されて、趣味は盆栽。

—40才—

宮木 信男氏 進歩委員。男の子供さん4名をボーイスカウトに、娘さんをガールスカウトに入隊させ、ご本人も永く団委員として活躍、文字通りのスカウト一家。成長した長男をはじめとして、兄弟がスカウト活動に愛情を示した行動をしてくれることは、ご両親の信念が反映されているものと思う。浜松青果市場に勤務。—49才—

観田 昭人氏 進歩委員。航空自衛隊第1航空団に勤務されている熱血溢る九州男子。小杉副会長の女婿でもある。釣りは大好き、特に天竜川の鮎つりは又格別、その鮎を肴にしての酒は2合程度をたしなむ。—47才—

金原 三夫氏 監事。永年監事として団の会計をチェックして頂いている。温厚な性格。三晃堂電器店を経営されている。
—51才—

馬渕 要人氏 監事。積志方面の父兄のまとめ役として奔走せられ、又団委員として活躍されていたが、今年より監事に専任。氏のスピーチは素晴らしい、その識見も又立派である。織布業を経営されている。—46才—

浜北第2団

松井 英昭氏 昭和44年発団（登録は都合により45年3月14日付）当初からの団委員長。当時長男が天竜第1団に入隊して居り、しかも此の旧赤佐村から12～3名前記天竜へ入隊して居ましたので、三室隊長（当時赤佐小学校先生）の勧めもあり、当地へ1ヶ団結成する事を痛感し、彼等の父兄と共に発起人となり結成すると同時に全員団委員であったのですが、現在当時の団員は1人になってしまった事を時々愚痴って居りますが、毎年のB S、C Sのキャンプには必ず参加し、隊長等への労をねぎらって居るのが彼その人である。

鈴木登記夫氏 発団当時の育成会員で、しかもリーダー講習も受講済みとか。当団は最初結成する際、隊員12名、育成会員は其の父兄等を含めて100名位いましたが、彼はその中の一人で、其の後子供さんを入隊させ現在では常時団委員を務め、キャンプ時には必ず野営地へ駆けつけ、隊員達に、又本部員達を慰問してくれる、当団には無くてはならぬ存在である。家業は瓦製造業で、又学校の先生もあります。

佐田 正一氏 C S隊発隊の発起人でもある彼は、発隊と同時に団委員になり常に隊員達の面倒を良く見、リーダー不足、又はリーダーの都合が悪い時などには時折リーダーの代りをも務めてくれる、当団には貴重な存在。勿論先の地区大会には表

彰されて居る。

小野田正吉氏 やはり当団発団当時からの育成会員。此の旧赤佐村には於呂、尾野、根堅の三つの大字があり、当時此の尾野部落には、あの皆さん御承知の第13回世界ジャンボリーの際ジャンボリー半ばに火災にあったのは野中隊員しか無く、又一部ではあったがB S結成に批判的な考え方を持って居る中で、いち早く賛成し育成会員になったのが他ならぬ彼でした。其の後、子供を入隊させて以来、今日まで団委員を務め、キャンプ時には前記佐田氏同様リーダー代りも務め、又青年時代には4 Hクラブのキャブテンとして数回に及ぶ表彰を受けて居る。それが彼の横顔である。

河野 次人氏 前記佐田氏同様C S隊発隊当時からの団委員で、やはり前の地区大会に表彰されて居る。職業は建設業で大変手広くやっておられるので常に忙しい体ですが、キャンプ時等にはトランク等提供して下さる影の協力者。尚其の代りでもあるまいが、奥さんをC Sコースのリーダーに受講させ、家族ぐるみ文字通りスカウト一家。勿論子供さん達は次々とC S、B Sと入隊させて居る。

森住 隆氏 当団切っての野営行事委員長。製材業を営んで居る彼は、野営行事委員ピッタリ。如何なる時でも（例えは人手不足、あるいは運搬車不足等）頼まれるとノーとは言わぬばかりか、率先して協力してくれる人柄。それだけに世界ジャンボリー、北海道の日本ジャンボリー見学隊員への奉仕は申すに及ばず、地区のグリーパーキャンプ、ブロック連合キャンプ、又は地区大会、県大会と、あらゆるところ当団参加しているところ必ず彼の顔あり。心強いかぎりだ。

松井 静雄氏 各運営委員必ずしも専門でなくとも良いと思うが、当団に於て健康安全委員と言えばやはり彼・松井静雄氏だ。医療器具販売業を営んで居る彼は医師、医院、或いは保健所等……そんな彼もキャンプには必ず参加してくれる、こまめな人柄。又スポーツマンである彼は、部落の野球チームの監督でもある。こい願わくばB Sのみに専念していただけたらと身勝手な希望か！

浜北第3団

大城 夢氏 育成会長。歯科医のかたわら、二代目の育成会長。人情味が厚く、物静かであって、気迫があり、ボーイスカウト育成にとって、熱心な良き理解者です。

平松 利八氏 育成会副会長。浜北市議会副議長。その重責の中を、大城会長の良き補佐役。常に温厚篤実な人。何時も、その献身的な活躍には、頭が下る次第です。

山下純太郎氏 団委員長。本団の結成発起人の一人であり、昭和46年2月14日発団当時からの団委員長。市社会教育委員、市青少年活動推進員等の奉仕活動で多忙。（地方公務員）

中野 岩雄氏 副団委員長。団員歴は、発団以来で、現在に至っている。眞面目な人で、色々な角度から物事を見、山下団委員長を補佐し、当団の運営に大きな役割を果している。奥様もD M経験者として、スカウト活動の良き理解者です。（会社員）

鈴木 郁夫氏 財政委員。当団の苦しい財政ですが、父兄に信頼の厚い、円満な人柄は、会計として適任。奥様ともに良き理解者です。（地方公務員）

大城 誠吉氏 組織拡張委員。団活動で困った時等、こころよく面倒をみててくれる、感心な人です。（サービス業）

伊藤 義美氏 指導者養成委員。会社勤めて多忙の中を、団のために、がっかりと受け止めて、がんばっている。（会社員）

山本 功氏 進歩委員。自営業のため仕事が多忙ですが、豊富な経験で、団の活動に協力している。（自動車整備業）

齊藤 祐司氏 野営行事委員。団の期待を担って選任された。不言実行の行動派の人です。現在奥様も、DMとして活躍中です。(団体職員)

松下 英之氏 健康安全委員。他人の悪口など言えない、誠実な人柄。奥様もDMを経験した、良き理解者です。(会社員)

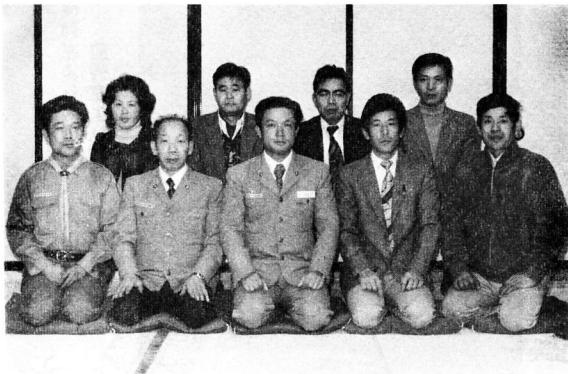
浜北第4団

団委員長 **松本 俊信氏**

昭和47年当団発足以来の団委員である。発足当時は組織拡張を担当し以後当時の星野団委員長を補佐し副団委員長を務めた。星野氏が不慮の病死後、団委員長を務めている。当団はまだ若年なのでリーダーを初め団委員の和とスカウティングの熱意を集中させることに力を注いでいる。趣味は天体観望。

副団委員長 **金子 輝男氏**

昭和48年子供と共に入団、当初よりスカウト活動には、常にリーダー、DMの協力者でした。49年にその実力により、副団委員長に抜擢、益々その本領を發揮、加えて財政委員長を兼務、予算調整とその就務に努力されて来ました。団委員長の補佐役として最適任者にて、団委員間の融和の要となって居ります。趣味はこれと云つてないが、スポーツの下手な横好き。



後列左より 石島、中村、高柳、藤森
前列左より 鷺見、金子、松本、大石、鈴木

財政委員長 **鈴木 玲次氏**

昭和48年子供がCS隊に入団と共に団委員となり、昭和51年度より団財政委員長を務めている。持前の地味なキチヨウ面さは打ってつけであり、予算の執行には厳しいところがあり大蔵省のかんろくがある。趣味はソフトボール、サウスポーの四番打者である。

財政委員 **福田 禮二氏**

昭和48年子供がBS隊になった時より財政委員として活躍している。BS隊の財政担当で隊長をよく助け、団発展のために努力をおしまない一員である。趣味は囲碁、早朝ソフトボールなど。

財政委員 **石島 宣代氏**

CS担当財政委員として、一方ではデンマザーとして3児の母親、そして家庭の主婦、どこでも会計責任者としての手腕はすばらしいものがある。

「いつも元気、の輪をもち活動を生かし、巾広い友情を育てる勉強をスカウトと共に頑張っている。趣味はスポーツ、詩吟。

組織拡張委員長 **松島 静雄氏**

昭和48年子供がCS隊に入隊と同時に組織拡張委員、昭和49年に組織拡張委員長となり、今日の発展の基礎がための要として活躍してきた。今後も青少年の健全育成にスカウト活動を通して努力してくれることであろう。

指導者養成委員長 **大石 昌氏**

昭和48年子供のガブ隊入隊と共に団委員となり、ガブ隊の制服を見ながら楽しい日々を過ごし、昭和49年指導者養成委員長となってからは積極的に活動に協力し、その任務をはたしてくれている。今後も団活動を責任をもって果してくれることであろう。趣味はソフトボール。

進歩委員長 **藤森 真言氏**

子供がガブ隊となった昭和48年より団委員となる。昭和51年4月より進歩委員長を担当し、各種行事に進んで参加し、団委員としての任務を充分にはたしている。今後も隊活動に積極的に参加して、団発展に努力してくれることと思う。趣味は旅行と麻雀。

野営行事委員長 **鷺見 藤吉氏**

昭和48年子供がCS隊に入団と同時に団委員となり、現在一番忙しい分野で活躍している。スカウト活動はビジネスに忙しいけれどBS、CS隊の集会や行事には積極的に参加しようと団委員にいつもよびかけている。趣味は魚つり、麻雀など。

野営行事副委員長 **中村 和夫氏**

本団結成のために有志と共に奔走し、創設以来5年間団委員、スカウト一家で家族4人それぞれスカウト活動に關係、奥様がガールスカウトリーダー(県広報委員長)長男シニア隊員、長女ガールスカウト、シニア団員、いつも本団の発展のために努力してくれている。趣味は山野を歩くこと。

野営行事副委員長 **遠藤 宅治氏**

子供と共に昭和48年に入団、団委員となり、子供達が自然の林の中で炊飯をやったり天竜川で水泳をしたり規律ある中にものびのびした遊び振りを見るのが何よりも楽しくてしようがない。当団が存続する限り何んでもお手伝いするつもりでいる。趣味は将棋、腕前はX段。

野営行事副委員長 **中田 克氏**

昭和48年子供がCS隊に入団と共に野営行事委員となり、いつも積極的参加してよく任務をはたしてくれている。今の子供達に必要な野外での生活、遊びを団委員共々大いに満喫させたい。北海道生れなのでウインタースポーツ、登山、釣りなどが趣味。

健康安全委員長 **鈴木弥寿次氏**

昭和48年より団委員となり、いつも隊員のよき理解者として、団発展に努力してくれている。スカウトは両親と広く一般社会の協力が得られなくてはできない教育運動であると云うことをいつも認識して積極的に団活動をしている。事故のない健康で明るい家庭をいつもモットーに趣味は釣りと麻雀。

事務局 **高柳 春男氏**

本団結成準備から手掛け、この間、育成会、団委員会の連絡係として会合の通知、集金の準備、資料の作成などを受け持ち、団発展の縁の下の力持ちをしてくれた。隊員12人で発足した本団が、より発展することを願っている。これといった趣味、特技がないのが特長である。

細江第1団

発団以来満6年の歳月を経た今日、団リーダーの大半は建団以来のモサぞろいです。団員も大巾にふえ地域社会にこの運動の意義と必要性を認識させています。

吾々は一致団結して涯しない可能性を秘めた若き生命の健全なる発展のため新しい年に当り決意を新たにするものです。

(団委員長)

永田千一氏 伊藤和助氏逝去されたる後、団委員長として活躍する。職業は接骨医として名声が高く、戦時中は海軍の防空隊長として戦争を体験されている。

齊藤敬一氏 副団委員長として団委員長を助けている。町の



後列左より 徳田、内山、県、上島、横田、内山、野末
前列左より 鴨藤、村上、永田、岡、岡田

スポーツ関係の役員として、特にラグビーをやっているスポーツマンである。

野末和彦氏 公務員として勤めのかたわら団のため細かい点まで気を配り、御子息二人もBS、SS隊員として活躍中。進歩委員。

池田嘉一氏 自営にて手広く商売されており、公職をいくつかもつておられ、多忙な日常ですが、団の為にかと面倒を見て下さいます。御長男はSS隊員として活躍中。財政委員。

渥美政男氏 電々公社にお勤めのかたわら、組織拡張委員として寸暇を惜しんで活躍中。御子息はアマ無線の資格をもってSS隊員として活躍中。

横田順子氏 薬屋として商売繁昌しており、御子息はBS隊員であり、DCとして、又柔道を習っております。商売柄、健康安全委員と、団の中ではBS隊だけの会計をやっています。

徳田修氏 自衛隊員として勤めのかたわら指導者養成委員として活躍、御子息はBS隊班長である。

岡田松男氏 建材業を営み乍ら野営行事委員として、縁の下の力もとして団にはなくてはならぬ人です。団発足からの重臣です。

上島昭太郎氏 団の為に物・心・財と三拍手揃えて面倒を見て下され、御子息二人共BS、SS隊員としてDCをも務められ、副団委員長として活躍中。

内山安夫氏 SS隊長を務めており、会社員としての多忙で

あるが、スカウト精神に徹している人。御子息は目下DCとして活躍中。

内山さわ子氏 御主人がSS隊長、御子息がBS隊員と一家揃ってスカウト。奥さん稼業の一方、隊の経理のアドバイサーとして絶大なる援助を頑いでおります。

岡周一氏 育成会長を務めております。御子息二人ともスカウトとしてDCをしたり、又班長として細江第1団発足以来なにかと献身的な御努力を得て今日に至りました。

引佐第2団

引佐第2団もようやく5年をすぎました。五里霧中の発足当時、隊長初めリーダー諸君の情熱と努力が一歩一歩みのって、ここまで来ました。団委員達も引っぱられて参りました。こんどはカブ隊も発足すべく、内山一雄君、内山隆次郎君がカブ講習に出席し着々準備をととのえて一日も早くカブ隊発足に張り切っております。ここ迄こられたのも隣接友隊の力強い支援と地区的皆様の御指導の賜とで感謝にたえません。今後共よろしく御願い申上げます。（団委員）



後列左より内山(一)、内山(隆)
前列左より黒瀬、高須

中央小地区キャンポリー

6月19日、中央ブロック各団委員長と、各隊担当リーダーは、玉木ブロック長より召集がかかり、板屋町のさる辻に集合しました。良い場所であったので、新メンバーの顔合せかと楽しみに出掛けましたが、それはツマであり、刺身は「玉木内閣の施政方針説明会」がありました。

計画の概略説明の後、この遂行のため団委員各位の積極的な協力要請依頼があり、ブロック長より第1団委員長の法林寺吉沢師以下各団委員長にこの指導が渡された訳であります。この初仕事を中央ブロックキャンポリーでする事になりました。

リーダー会より日程と行事を実行委員会に提示されたものの引き受けた作業内容によっては初体験で頭をかかえ込んだ団もありました。

プログラムは、カブ隊が10月9日、夜は卸商団地の御好意（担当第15団）を得て、団地内の会館に宿営、10日はボーイ隊と合同運動会ボーイ、シニア一隊は9日より11日、中田島風揚会場、駐車場でキャンプをしながら、10日に運動会、11日にワイドゲーム（1、14、22団担当）と云う予定で組まれ、宿営、キャンプの食糧調達を6団、総務関係を21団と分担し、裏方を務める団委員の人達も準備万端整えて、200人のスカ

浜松第14団・団委員長 奥沢達司

ウト諸君の集う日を待っていた訳です。

ところが誠に残念、心配した雨が8日には台風に変わり、海岸沿いは特に要注意と報ぜられ、9日のプログラムは中止せざるを得なくなりました。

昨日のことは嘘のような10日、体育の日の朝、200人の力余ったスカウト達は、担当の団の人達によって準備された運動会場に元気よく勢揃いしました。開会セレモニーの後、スカウト運動会ならではの独特的な障害物競争、担架、手旗、借物の競争等を盛り込んだプログラムで一日を充分楽しみ乍ら、日頃の訓練の成果を披露、競い合う事が出来た事は大変有意義であったと思っております。

運動会後のキャンプの設営は夕方から吹き始めた強風の中で、スカウト達は苦労しましたが、各団各様の設営方法で、キャンプ展示場を見る感でした。食糧配給を受け、一番先に「いただきます」の刻の声を上げようと、日暮れの中で、口を白黒させて頑張っているスカウト諸君を見ていると、この日の為にリーダー諸兄姉の足手まといになり乍らも、度重ねて来たブロック、団の会議の成果は、初期の目的を達成し得たものと、御努力くださった方々に御礼申し上げます。

浜北小地区合同運動会 浜北第1団カブ隊 水出智明

11月21日、よく晴れた秋の一日。

浜北市中瀬小学校グランドで、浜北地区の合同運動会が行われました。

ぼくは今までのスカウト生活の中で、はじめての運動会でしたので大変楽しみでした。北部中学校前の集合地点より、中瀬小学校まで約一キロの道を鼓隊パレードをしました。

開会式のあいさつが団委員長よりありました。皆などの顔も負けるものかというがんばりの顔でした。

ぼくたちは『ものまね競走』です。

「ようい、どん」とピストルの音がグランドいっぱいになりひびく。

もう五番目ぐらいまで順番がきている。まえの日までは競走には自信があった。でもこの時になつたら全然自信がなくなってしまった。ぼくと同じ列には初対面のカブばかり、あの子は足がはやいかなと思っていた、不安になった。

あと一番と順番がせまってくる。

ああきたかとなき声が体中をかけめぐってくる。でも、びりでもいい、走れ走れと考えた。

よういかまえに入り、さあ前進あるのみだと思って一生懸命走った。途中でカードをめくると、中に大きく『トラ』と書いてあった。負けるものかとよつぱりになって走り出した。あと少しだ、がんばれと心の中で思った。やった。一位だ。後をふりかえって見たら、まだ走っている人ばかりだった。自分で感心するくらいだった。

こんな短い時間に、これだけの勇気が出たカブ隊最後の運動会に参加できて本当によかったとしみじみ思った。

競技種目を全部終了して、帰り道に本当に楽しかったと思った。

舍 営 浜北第1団カブ隊 坂梨聖賢

8月14日、土曜日

今日はぼくのガブスカウト最後の舍営だ。うれしくてきのうの夜から眠られなかった。朝は八幡のソフトボールの練習があり、昼ごはんを食べてから夕ごはんの材料を車に乗せて出かけた。

不動山のけいだいのところで集合し、組分けをした。一番目から順番に番号をかけ、六になつたらまた一から数え直すやり方で分けた。

ぼくは三組だった。分け終ってから組ごとに分かれて紙芝居作りをした。ぼくたちの所は話し合ってもまとまらずみんな考えこんでしまった。考えていると前に学校で『金太郎やぶれたり』という劇をやったのを思い出し、少しかえて『銀太郎』というのを作ってみんなに見せた。終ってから新木君がぼくのところへ来て『前にやったのと似てるな』と言った。

夜になって『きもだめし』をやった。去年とちがい、今年は二人一組でやった。二つのコースがあり、ぼくは下へおりてから上に登って、名前を書いてくるのだが、そのほかに二つの問題があった。一つは、とうろうの数を数えること。もう一つは、地ぞうさまの数を数えることだ。後で答えを教えてくれたが、残念ながら一つしかあっていなかった。

8月15日 日曜日

朝5時半に起きてラジオ体操をやった。ごはんを食べたあと、ソフトボール大会をやった。ぼくはキャッチャーをやった。第一試合は、一組とやつたが初回から点を取られ負けてしまった。ぼくたちは不戦勝を取ったので負けてもう一試合できる。し

かもそれは第3位決定戦だ。この試合は、相手が不しんだった上、ぼくたちの打げきが良かったので楽勝だった。

とても楽しく色々なことがあった舍営だった。

お月見会 浜北第4団カブ隊藤森英俊

9月4日の日に、お月見会を、やりました。カレーを作ると言ったのでおさらとスプーンと野菜をデンマザーの所へわきました。ぼくは、たまねぎとジャガイモを切りました。ジャガイモは、よかったですたまねぎを切ると、なみだが出来ました。それで全部切つてしまつて、おなべに入れて、混ぜて煮ました。ぼくらの所は煮えるのがおそかったので、ほかの場所にうつしました。そうしたら、すぐ煮えてしまいました。カレー粉を入れて出来上がりです。

今度は、おもちを作ると言ったので、いろいろな形にして、おなべに入れました。ぼくは、ぼう形にしました。煮えるのを、まつていました。やつと煮えました。出来上りました。早く食べたいなーと思っていると「まだ、少し遊んできなさいよ」と言ったので、がっかりしてしまいました。まあ、しょうがないので、Sだんをやりました。

少し遊んでから、「赤組の人は、早くきなよー」と言ったので、まだかーと思ってがっかりしました。また、少し遊んでいると「白組の人は、早くきなさいよー」と言ったので、白組は行きました。次が黄色で、黄色の次が、ぼくの組の縁組です。やつとよびに来ました。そして青で、えび茶というふうにして、よびにきました。

「カレーを食べるよー」といったので、カレーを食べました。ごはんに、カレーをかけて食べました。とてもおいしかったので、2はいおかわりをしました。2回目のカレーは、うすかつたので少しまずかったです。食べてしまつてから、しょっきを、かたづけました。

おなかが、いっぱいになったので、いっぷくして、少し家の内で遊びました。遊んでいるうちに「おもちを食べるで早くきなさい」と言ったので、急いで自分の場所へもどりました。おさとうを、つけて食べました。

カレーもおもちも、とてもおいしかったです。とても楽しいお月見会でした。

カブスカウトになって 浜北第4団カブ隊 永島克也

ぼくが、カブスカウトに入ろうと思ったのは、友だちがたくさんできるからだ。近所のおじさんに教えてもらって、入った。

美蘭のお宮で、りすの道を勉強している時、兄さんたちは、ゲームとか、カブブックの勉強をしていた。早く、隊服を着て、一緒に遊びたいなと思って、一生懸命がんばった。

夏休みになる前に、入隊式が美蘭の公民館であった。

式の時、隊長に呼ばれて、みんなの前で誓のことば、やくそく、さだめをいう時、胸がどきどきした。

夏休みに入って、すぐキャンプで観音山を行つた。

今日から、服を着て行くので、ちょっとはずかしかった。

川遊びで、いかだを作り乗つたり、泳いだり、グループの旗、星の勉強をしたりしてとっても楽しかった。

鼓笛のやりかた、ロープのむすびかたを教えてくれる。

鼓笛の練習は、むずかしい時があるけれど、できた時は、いい気分だ。

11月21日に、浜北地区のカブスカウトやボーイスカウトの運動会が、中瀬の小学校であった。

いろいろのきょうそうがあつて、おかあさんと一緒に走つたりして、とても楽しかった。

ぼくは、カブスカウトに入って、とてもよかったです。

謹賀新年

謹 賀 新 年

浜松地区財政委員長 金森武夫	浜松地区指導者養成委員長 斎木誠二	浜松地区野営行事委員長 竹村徳一
浜松地区組織拡張委員長 山中将司	浜松地区進歩委員長 中嶋圭介	浜松地区健康安全委員長 長尾静夫
浜松第22団	浜松第11団	浜松第24団
B S 团 副 团 委 員 育 成 会 長 副隊長 隊員 委員長 會長 谷 鈴 大 白 松 齊 高 横 大 横 木 下 川 鈴 木 角 松 本 藤 島 木 木 木 沢 清 登 喜 俊 哲 実 章 邦 隆 昌 昌 夫 幸 実 章 邦 二 春 一 喜 俊 彦 伸 宏 邦 隆 章 邦 二 春 一 喜 俊 彦 伸 昌 夫 幸 実 章 邦 二 春 一 喜 俊 彦 伸	團委員長 斎藤繁雄 副 副隊長 森島久男 副 鈴木良雄	B S 团 副 团 委 員 育 成 会 長 副隊長 隊員 委員長 會長 伊 田 菲 中 久 島 戸 塚 市 細 鈴 白 尾 勝 司 房 尚 豊 拓 茂 信 要 老 浩 五 平 子 男 伸 明 信 三 要 伸 浩 五 平 勝 司 房 尚 豊 拓 茂 信 要 老 浩 五 平 子 男 伸 明 信 三 要 伸 浩 五 平
浜北第1団	浜松第4団	浜松第7団
監 事 内 山 坂 平 布 リ 横 宮 伊 委 团 副 团 育 成 会 長 原 宮 下 東 野 施 ダ 木 本 委 員 委員長 會長 三 正 慶 正 隆 清 信 雄 男 勝 副隊長 隊長 夫 真 義 一 昭 三 雄 男 勝 副隊長 隊長 馬 奥 坂 外 井 小 石 米 松 杉 手 小 橫 渕 野 東 山 口 倉 田 沢 本 山 塚 杉 田 要 人 嘉 吉 清 茂 二 吉 芳 友 清 一 敦 保 嘉 郎 治 郎 男 保 弘 雄	R S S B S C S 团 委員長 副隊長 副隊長 副隊長 副隊長 副隊長 野 鈴 野 大 千 清 鈴 西 牧 松 吉 鈴 松 後 山 内 口 木 口 橋 葉 井 木 野 野 井 田 木 井 藤 葉 田 光 光 充 美 と 伸 伸 忠 義 伸 時 一 実 一 人 聰 世 み 子 繢 篤 一 平 男 真 雄 世	〃 S S B S C S 团 副 团 委 員 育 成 会 長 副隊長 副隊長 副隊長 副隊長 副隊長 山村高青新森酒永島岡島菊北森中光伊勝谷 泉松倉山田川井田 野嶋地川重村部藤又口 千 邦清市修房一通保久桂計良太公四綾教久 勝男雄郎一雄三兒子子子子雄郎一郎子司雄
浜北第2団	浜北第4団	浜松第12団
B S C S 团 委員長 副隊長 副隊長 副隊長 副隊長 桐 隊 須 賀 松 井 尾 田 藤 森 青 島 育 成 会 長 烟 大 須 賀 英 直 孝 兼 治 守 進 昭 寛 男 治	リ 団 育 ボ ー 委 成 カ ダ 一 員 ト ー 会 同	團委員長 中嶋圭介 團委員 一同
浜北第3団	浜松第15団	浜松第16団
〃 S S B S C S 健 野 進 指 會 財 副 委員長 康 常 行 歩 委 員 須 賀 拡 政 团 委 員 須 賀 〃 副隊長 副隊長 副隊長 副隊長 副隊長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 村 阿 高 村 阿 大 藤 竹 野 松 齊 山 伊 大 鈴 中 山 阿 大 松 部 田 松 部 橋 原 内 下 藤 本 藤 城 木 野 下 部 松 城 す 不 総 幹 全 達 幹 全 弘 保 二 英 祐 義 誠 郁 岩 太 淑 利 昭 二 雄 茂 昭 一 子 夫 夫 之 司 功 美 吉 夫 雄 邦 夫 八 豊 利	R S S B S 第 1 隊 長 副隊長 副隊長 副隊長 S S S 隊 長 前 田 川 澄 榎 田 榎 田 平 野 原 口 馬 場 前 田 榎 田 榎 田 芳 武 俊 郎 積 榎 治 郎 榎 治 郎 穂 俊 榎 治 郎 榎 治 郎 一 郎 茅 司 将 司 茅 司 将 司 榮 治 司 将 司 茅 司 将 司	S S B S C S 团 副 团 委員長 隊 須 賀 副隊長 副隊長 副隊長 副隊長 新 桦 木 柴 渡 山 加 石 松 市 石 中 四 黒 平 伊 鈴 杉 新 市 井 田 本 部 遠 口 藤 井 山 川 津 島 津 柳 尾 熊 木 本 谷 川 た 信 洋 一 正 興 照 義 み 京 浩 宏 昭 繁 智 利 晴 重 一 夫 则 司 司 勝 章 え 史 宏 二 吉 夫 光 司 夫 夫 豊 雄

観音山の合同キャンプ にさん加したこと

浜北第4団カブ隊 加藤友信

8月7日、ぼくには待ちに待った日です。バスで市やく所までいってみんなを待っていました。みんな集まつたとき赤組は戸倉君とぼくと2人だけでした。また、市やく所のところを出たときは、雨が降っていましたが、浜北第2団と合同したときはくもり、観音山についたときは晴れました。

ついでから食どう（赤石）の所でべんとうをたべ、昼の2時か3時ごろ、きじのへやにはいました。観音山は山なので登ったり下りたりするときつかれました。そしてタベのつどいをやりました。

夜、ハイキングをやって第一日めはおわりました。

第二日めは、朝のつどいをやってから賢一君といっしょにそうじの場所へ行きました。そして朝食をとってから自由時間があって、それから紙で動物を作りました。昼食をとってから自由時間です。ぼくは、光正君と賢一君をさそて野外遊具場へ行きました。去年はなかったのでびっくりしました。ここにはきず山登りで20㍍登って、人間かっ車をやってから空中遊えいをやって、それからハイキングコースを通って帰りました。とてもつかれました。

最後にぼくは一組の次長になりました。次長といつてもなんにも仕事はありませんでした。

帰りはバスで市やく所前までいって、お父さんがむかえにきてくれました。とても楽しかった二日間でした。

浜松地区大会に参加して

浜北第1団カブ隊 伊藤信介

9月26日、ぼくは浜松地区大会に参加しました。開会式がとても長いのでいやになってしまいました。

式が終って「棒たおし」というゲームをしました。初めは守り組でした。ここで一勝したあとは、せめ組になりました。せめて行く時に相手側にひっかけられたので、よけいにはりきました。それなのに負けてしまい一勝一敗で引き分けとなってしまい残念でした。

昼食を食べて三つゲームをしました。

一番最後にやった竹とんぼ作りは、ナイフがよくきれなくて手に豆ができてしまいました。

最後にお願いしたいことは、開会式や閉会式をもっと短かくしてゲームなどを多くしてくれると、もっと楽しい大会になると思います。



たのしい食事

我隊の自まん

引佐第2団 内山圭三

五回か六回目になると思うが、当隊自まんの年中行事の一つに初日の出をおがむ会があります。ねむい眼をこすりながら、午前5時30分に三岳山に向って出発、すがすがしい気持ちで初日をおがんできました。これだけでは何でもないし、どこの隊でも行なっている行事ですが、頂上での甘酒大パーティーはちょっとまねができない行事だと思います。大みそかの夜、仕入れておいた甘酒の素と、大きなかまを三岳山に運んで盛大なたき火をして、20リットルの甘酒を腹いっぱい飲み、大ぜいの一般の方にサービスして今年もやるぞ!!と気持ちをひしめ、いい気持ちで帰ってきます。皆さん、ぜひ当隊の初日の出をおがむ会に参加して下さい。



浜北の風車 製作技術公開中

隊活動

浜北第2団ボーイ隊 鈴木光則

小学六年の時にボーイスカウトに入り、約一年半過ぎた。小学六年の時は、先輩の指示に従ってきたが、中学一年になってからは、中学三年の先輩は、テスト勉強のために参加できなくなり、新しく小学六年の後輩たちが入ってきた。中学二年の先輩もあまり参加しなくなり、僕達中学一年が中心となってきた。

ボーイスカウトにはいり、初めてのキャンプは、平口不動寺で行なった。僕達だけが水くみや、食器洗いで不公平だと思ったが、あとでよく考えてみれば後輩がやるということがあたりまえだから仕方がないと思った。しかし、あの時はとても疲れた。中学一年になってキャンプは中学一・二年が中心となって行った。この時はキャンプ地に到着するまでが大変だった。浜松地区大会は地元の県立森林公園で行われ、僕達の班はオリエンテーリングで第一位になった。地元で道などをよく知っていたが、僕達の班は他の班とはちがい歩かず走って行ったことが一位になった原因と思う。今年は、初めてソフトボール大会に参加した。第一回戦は接戦の末に勝ったが、第二回戦は負けてしまった。この日はとても楽しかった。

ボーイスカウトでの活動は、まだ一年半と浅いが、一年半の間には苦しいこと、楽しいことなど、いろいろあった。これからもスカウト活動でいろいろな経験をつみ、先輩達に負けないように、これからも一生懸命がんばって行きたい。これからは僕達もテスト勉強で参加が出来なくなると思うが、できるだけ活動に参加していきたいと思う。

班集会

浜北第四団ボーイ隊 坪井 浩

ぼくたち、のばと班は、月に一回から三回、班集会をかならず行う。班集会の行われる会場まで20分以上かかる。その時いつも語る話は、「班集会の回数が多すぎる」と言う話がかなりである。班長もすきでやっているとは思えない。だが、いやいや行った班集会でも、たまにはいいこともある。プラモデルの製作やソフトボール、まだたくさんある。こんなにたのしい班は世界に一つしかないだろうと思う時もある。班集会には、かならず出席し、いろいろな知識を身につけたいと思います。

初日の出

浜北第四団ボーイ隊 中安哲也

ぼくが初めて初日の出を見に行ったのは五年生の時でした。まだ暗い道を五時ごろ自転車で天竜川まで行くのです。天竜川に着いても一時間も待っていかなくてはならないのです。副長たちが火をつけてくれた。それに身体を近よらせて暖まる。デンマザーたちの作ってくれたおしるこ、なんとおいしいのだろう。体がものすごく暖まる。そしてしない間に時間もすぎ、いよいよ日の出「敬礼」と隊長がかけ声をかける。山と山の間からすこしづつ出てくる太陽を見て新しい希望がわいてくるのでした。ぼくは、初日の出を見てとてもすばらしく、とおといものだとしみじみ感じました。



天幕張りくらべ

初めての隊キャンプ

浜北第四団ボーイ隊 鷺見藤郎

8月16、17、18日は浜北第4団のキャンプでした。

目的地は佐久と言う所です。

場所は天竜川支流の上流です。

佐久につくと隊長から注意をききました。まず、テントを張り食堂フライを作りました。作っている時、風が出てきて雨も降ってきました。雨は台風なりになり、雷もありました。雨は30分ほどで上がり、すぐ晴れました。夜は団委員長から星座の名前、形などをおそれました。

17日は近くの気多川に水遊びに行きました。副長は上方でつりをしました。数は、まあまあでした。

18日は帰る準備をしました。丸太などは、トラックにつみました。帰りには、隊長の家により団委員の人たちと、ぼくと同じ班の人と道具を倉庫にしまい、解散しました。



開会ファンファーレ

思い出と希望

浜北第二団ボーイ隊 川村寿満

ぼくは今年になってスカウト生活五年になります。この五年には、いろいろなことがありました。その中でも今年が最高に楽しい年でした。森林公園での地区大会、2泊3日の天竜市青谷地内赤佐地区財産区有林でのキャンプ、朝霧高原での県大会・ソフトボール大会と楽しいことばかりでした。

地区大会のオリエンティーリングでは、ぼくたち班員五人がみんなで協力してやったので一位という、とてもよい成績をとることができました。キャンプは野営地がとても不便な所で水道もないのに、水をつかうのにも沢の水を使いました。ましてやキャンプ経験の少なかったぼくなので、とても苦労しましたが、とても楽しかったです。

県大会は、会場へもどる道をまちがえ、ゴルフ場へ入ってしまい、ゴルフ場の人に、いやというほどしかられていやだったけど、バザーがあったり、帰りに白糸の滝によったりしたのでよかったです。ソフト大会は、優勝をねらっていたのですが、二回戦に練習不足だったせいか、チームのエラーがでたり、チャンスに得点を入れることができず、ぼくとしても四番でキヤブテンだったので打たなければいけないと、あせればあせるほど打てず、わずかな差で負けてしまいました。しかし精いっぱいだったので、負けたけど気持がよかったです。今年はこのようにとてもよい年でした。

来年はキャンプをもっと回数を多くして、食事の献立は各班で決めるようにして、魚釣りなどをやりたいと思います。それと早いころから、少しずつ、ソフトの練習をやって、ソフトボール大会には優勝したいと思います。それからサイクリング・オリエンティーリング・奉仕作業などもやっていきたいと思います。それからこれはぼく自身のことですが、来年は、今年よりもっとしっかり、目下の人に、はじめようやっていきたいと思います。

迎春 ボーイスカウト日本連盟浜松需品部 スポーツ品全般 体育器具・器材設計施工

旭スポーツ店

浜松・連尺町2 TEL 54-4301

ハムは楽しい

引佐第2団ボーイ隊 佐野 治

つい、きのうのように思われるアマチュア無線講習会から早く一年。免許状の申請の手続きも終わり、待望のCall sign も、もらい、今や日本、いや国際的なハムの仲間入りの時がやってきました。

昨年の夏休みに機器を買ってもらい、現在でも楽しくマイクを握る毎日です。

ぼくの「first contact」のことを話します。

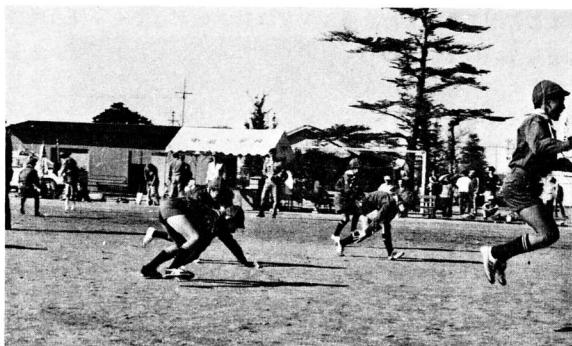
当時、電離層の状態も良好な夏、袋から出したRigとMicを目の前にLet's begin! POWER ON、同時にCQ CQ こちらは……沖縄県……colling you and standing-by。manner もろくに知らないうちに、こちらはJE 2 KW X……静岡県と少し汗ばむ。手にペンをとり先ほど記入した相手のsignal強度などを言ってマイクを返した。竹に銅線を張った逆Vのアンテナでどのくらいで入っているのか心配でした。しかし諒かいで5「'59」の交信レポートをもらい、ひとまずホッとしました。こんな具合で終わったfirst QSOでした。

こういった各県の人と話ができるのもハムならではのことだと思います。

数回contactしていると天候(WX)などのことでも、ちょっとしたエピソードなどもあり、また楽しみの一つでもあります。

こうして四ヶ月たつといろいろなことがあります、がまだまだ自己訓練することが多くあり、今後の課題だと胸をふくらませています。

どうです、みなさんも世界に電波に乗って飛躍してみませんか。未知の世界にいとんでもみませんか。



ぼく「カンガール」きみ「うさぎ」

「協力」

細江第1団ボーイ隊 上島裕次郎

「協力」、たった二文字の言葉だけれども、スカウト活動にとって最も大切な事だと思う。「協力」、そうです。この精神がなくては、私達のような団体行動はできないと思います。

キャンプやサイクリングなど何を行なうにしても一番大切だと思います。カブスカウトだったころ、よく隊長やD・Mなどに「協力しなさい」といわれる時が幾度かありました。たいていして気にもしていませんでした。が今になってみるとその言葉のたいせつさというものがよくわかりました。みんなでやればどんな事でも出来るのだなア~と思いました。

正月中旬に読んだ「十五少年漂流記」のように長時間、子供達だけでも生活ができるのです。それが身にしみて感じました。あと一年と少ししかないボーイスカウト生活ができるだけの事はしていきたいと思います。

「協力」ということを主にして……。



地区大会選手宣誓

引佐第2団ボーイ隊紹介

引佐第2団ボーイ隊 内山辰宏

引佐二団を紹介します。元気ハツラツ、まじめなところをモットーに隊長のもとで力いっぱいスカウト活動をしています。年のはじめから大みそかまで、スカウト精神を、隊集会をと行なっています。そこで、その活動の一部をこれから紹介します。

ぼくたち引佐二団では、毎年元旦に初日の出を拝みに行きます。朝早いのですが、日をこすりながら出発します。空もようやく明るくなった頃、目ざす三岳山の神社につきます。それから初日の出を見ます。その雄大な太陽に、ボーイスカウトの三つのちかいをちかいります。一月十五日ごろには発隊式が行なわれます。

四月には、サイクリングを行ないます。今まで自分が行ったことのないようなところへ行き、そんな所でも交通規則を守れる。また長い距離でも自分の意志と気力で走りぬく。そして自分の体力の限界に挑戦するということがねらいだと思います。

八月にはキャンプが行なわれます。キャンプをする時に一番大変なのが食事だと思います。なれない手つきで野菜を切ります。そのために形も少しへんな形になりますが食べてみれば味は同じです。山の空気をおかげにして食べると、ごはんもいちだんとおいしくなります。十二月にはクリスマスパーティーが開かれます。一人百円ぐらいというきまつた金額の中でプレゼントを買うのも一つの楽しみですが、その中に入れたメッセージを読み上げるのもクリスマスパーティーならではのおもしろさです。またその日には一年間の反省ということで隊長さんが話をしてくれます。以上のことが主な隊の行事ですが、行なっている活動はこれだけではありません。三つのちかいをいつも忘れずに立派なスカウトになって社会のために喜んで奉仕できる人間になってゆきたいと隊員の一人一人が、がんばっています。

ボーイ隊に入って

細江第1団ボーイ隊 横田俊之

カブスカウトの頃、ぼくはボーイスカウトのハット、制服にあこがれを感じた。そしてボーイスカウトになって三年の月日がたった。今では、もうこの制服も、すっかり板についた感じがする。でも月日がたつにつれて新鮮な気持ちが失なわれていく気がした。特に中二になってからD・Cになり、ボーイへの出席が薄くなったりもあったからだ。でも、たまに出て行くと、あるある、仲間の顔がごろごろしている。やはりボーイスカウトに入隊して一番強く心に感じた事は、友達との友情ではないかと思う。そして、その友情は奉仕活動に、そして野営にすべてのボーイ活動に生かされていると思う。そして、その中で一人一人が自分の心をみがいていくのだと思う。そうした中で生まれた人間は、社会的にかけがえのない人間性を身につけることができるだろう。

第1回ボーイスカウト写真コンテスト入賞作品 一般の部 入選



隊旗群集合

内田時世（浜松第4団）



ウッドバッヂ実修所の朝 宮沢広士（浜松第12団）



さあ行こう

山口照司（浜松第16団）



お母さんしっかり

後藤守利（浜松第10団）



迷彩カメラマン

前田穂穂（浜松第15団）



ポイントをめざして

河原崎 敏（浜松第1団）



輪になって

島津嘉光（浜松第24団）



ぼくの組の紙芝居

中谷好子（浜松第7団）



タ

食

水野和重（浜名第8団）



ボーイスカウトの料理教室

水野和重（浜名第8団）

第1回ボーイスカウト写真コンテスト入賞作品 スカウトの部



特選=サマー出発だ

堤崎直人（浜松第15団）



特選=やつたぜハイク

名倉孝次（浜松第15団）



入選=野営地での結索 中西 浩（浜松第15団）



特選=県大会「一同敬礼」 山中 将（浜松第15団）



入選=キャンプでの料理 内山忠洋（浜松第15団）



入選=初級を指導する一級スカウト 近藤竜太郎（浜松第15団）

う ご き

- 51年10月3日 県西部团委員長会議（法林寺）
 8～11日 WB研修所SS課程 静岡第1期（袋井）
 9～11日 中央小地区キャンボリー（中田島）
 13日 地区ソフトボール大会打合せ（法林寺）
 16日 地区大会反省会（法林寺）
 16～17日 J.O.T.A.（中田島）
 21～24日 WB研修所CS課程 静岡第13期（青年の家）
 24日 地区ヨット格納及び片付け
 31日 地区ソフトボール大会（自衛隊グラウンド）
 南部小地区大会（可美小）
 11月8日 地区内コミ会議（法材寺）
 13～14日 野営行事委員研修会（芝形野営場）

- 11月13～14日 指導者養成講習会CSコース（新居ユースホステル）
 15日 地区名譽会議（法林寺）
 20日 地区コミ集会（県民会館）
 21日 浜北小地区大会（中瀬小）
 23日 地区内CSリーダー研修会（自衛隊研修室）
 12月11～12日 地区訓練チーム研修会（助信町）
 11日 事務長会議（県民会館）
 26日 地区コミ会議（法材寺）

～あ と が き～

◎謹しんで新年の弥栄を申し上げます。

元日、中田島海岸の日の出選挙式に集まる浜松地区スカウト、リーダー、団委員等300余名、今年も元気なスカウト活動の出来るよい年であることを祈念します。

◎本号は浜北、引佐小地区担当にて編集、さきの写真コンテスト入賞作品を増頁にて発表します。

◎浜松第18団にカブ隊が、浜北小地区に浜北第5団が、ともに誕生の予定です。

スカウト仲間が増えるのはうれしいものです。

(S.Y記)

発 行 所

第66号

日本ボーイスカウト浜松地区事務所
 浜松市利町70-4 児童会館内
 編集発行責任者 山中将司
 印刷所 朝日堂印刷所
 昭和52年1月15日発行